

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271900288		
法人名	社会福祉法人 水澄み会		
事業所名	グループホームゆうな むつみや		
所在地	島根県浜田市三隅町河内465-3		
自己評価作成日	平成30年11月6日	評価結果市町村受理日	令和元年8月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様一人ひとりのペースを大切に家庭的な雰囲気の中でお客様の立場に立った支援を実施しています。
毎月、両ユニット合同の会食を行いお客様同士の交流を大切にしています。
地域行事への参加やボランティアの方による舞踊や手品を披露して頂き地域との交流を図り、お客様の喜びに繋げている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くに大きな川が流れており、過去に大水害を経験した地域でもあることから、防災への意識が高く、毎年地域を上げての防災訓練に参加している。また、同法人の複合的な福祉施設が近くに位置し協力が得られることから、地域を含めた支援体制は確立している。管理者が変わって2年。引き継ぎながら手さぐり状態で進めてきており、経験の少ない職員もあることから、ケアの充実に苦慮している様子が伺える。大規模な法人で多くの面での支援体制もあることから、日々の業務の見直しや、幅広い内容の研修や勉強会を重ねることで、職員個々のレベルアップに繋げていただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえて毎年事務所目標を掲げて職員全員で共有し、お客様全体の介護の実践に取り組んでいる。	法人の理念を踏まえてここでの事業所目標を管理者が作成している。職員会議の場で伝え個人目標に繋げるようにしている。管理者職員研修で反省を行い次年度の作成に生かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として自治会に加入している。自治会の草刈りや地域行事へは積極的に参加している。ゆうな祭を通じて保育園児との交流がある。	地域からは踊りやマジックのボランティアや、施設周辺の草刈りなど継続的な関わりがある。同地区の祭りやこの地域全体のイベントには毎回参加し交流を深めている。他にも、福祉系の高校の実習施設として積極的に受け入れを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の会合や運営推進会議の場にて認知症ケアの啓発に努めている。又、人材育成の貢献として実習生の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、お客様の状況報告をお伝えし意見交換の場を持ち今後の運営に活かせるようにしている。ご家族様への参加を呼びかけ参加して頂いている。	地域からは自治会長、民生委員、婦人会関係者、市からは担当課課長に家族代表を含めて定期に開催。入所者の身体状況や行事の様子、事故報告等を行い意見交換に繋げている。行政や地域からの情報を得る機会になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当の方とは運営推進会議の場において助言を頂いている。市町村と連携し、事業所の取組みに理解、協力をして頂いている。	運営推進会議には毎回参加があり、意見を得ている。介護保険更新時の認定調査や生活保護利用者には担当課との面接など関わりが多くあり、介護保険関連で判断しにくい事項については問い合わせるなどいい関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての理解はしており、玄関、ベランダ、居室等、日中は自由に出入りできるようにしている。夜間は玄関、ベランダ等、防犯上施錠をしている。お客様に対する身体拘束は行っていない。	運営推進会議では毎回身体拘束への取り組みを報告している。委員会の開催や事業所内での勉強会や市主催の研修に参加するなど、身体拘束のないケアの実践に意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議で虐待・身体拘束の勉強会を行い事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての勉強会は行えていないが後見人制度を利用されているお客様はおられる。ご本人、家族、後見人と連携し協力、支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約的には、ご家族様に十分に説明を行い同意を得ている。解約時についても、ご家族様に十分説明し理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回(9月)ご家族様にアンケートを行い、ご家族様の意見要望に添えるようにしている。又、アンケートの集計報告も行っている。	年1回の家族アンケートを行ったり、今月は家族会の開催を予定している。年4回行事の様子などを中心に広報を発行したり、担当職員からは写真入りで日頃の様子を伝える便りを送ったりと、様々な機会で見聞を得る取り組みを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議、年に2回の面接を通じて職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	管理者は日頃からホウレンソウを重視するように話しており、小さいことでも気軽に話せるような雰囲気作りに努めている。会議の場や年2回の面談の場でも意見を聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務目標設定表での年2回の評価や月ごとの活動担当制を行いやりがい向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加する機会を設けている。毎月の勉強会では職員が講師になり勉強会を行っている。力量を評価するために介護職員評価シートを用いて評価している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護支援員は包括ネットワーク研修へ参加し同業者との交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に本人様が困っていること不安なこと等の要望に耳を傾けながら本人様の安心を確保する為の関係づくりに努めている。介護計画書に取り入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が困っている事、不安な事をお聞きしその都度対応し関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談があった時には、ご本人様の様子を見極め他のサービスも含めた助言等を行っている。又、施設への見学の受け入れも行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の出来る事をして頂き清掃、衣類たたみ、料理の手伝い等の生活動作を共にを行い家庭的な雰囲気の中で生活出来るように接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・外出・外泊の制限なく受け入れ、出来るだけ家族との時間を大切にしている。お客様の様子や職員の介助困難事例について話し合いご家族様と協力関係が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や親戚の方からの電話を取り持っている。行きつけの美容院を利用したり、自宅近くの商店に行き買い物をしている。	地域開催の行事には参加するようにして、友人や近所の方に出会う機会を大切にしている。家族の方の協力を得て、墓参りや美容院への外出も継続するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席を気の合う方と同席にしたりお客様が一人で孤立しないように声かけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもご家族様と連絡がとれるように必要に応じてサービスの対応が出来るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で希望や意向を伺い把握に努めている。又、お客様の表情や言葉から思いを汲みとる努力をしている。	直接本人に聞きにくい場面だったり、同じような返答が多いこともあり、レクの提供時や普段の様子から汲みとるよう職員間で話し合っている。	残存能力を生かせるような取り組みに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご本人様の会話の中から昔の事を聞いたりしながら生活歴や生活環境を把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録に一日の過ごし方を残し職員が現状を把握している。興味を持たれた事や初めて行った事、体調の変化など個人記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のカンファレンスでお客様の事を話し合いモニタリング・ケアプラン評価を行いながら本人様の意向に添う介護計画書を作成している。	家族関係者の希望の時間に合わせて調節し、担当者会議を開催するようにしている。日々の様子をケース記録に残し、モニタリングを行いプランの評価をすることで、現状に添った計画になるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	お客様の日々の様子や気付いた事を生活記録に残したり支援経過記録に残し職員全員で共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様の体調に合わせて医療との連携を(ご家族様のご協力の基、訪問看護の利用)を図っている。退院時の送迎支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し、買い物、公民館での交流を持ち、ご本人様の体調に考慮しながら本人様の同意のもと参加できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族が希望するかかりつけ医となっている。ご家族と協力し受診を行ったり月1～2回の往診もあり、複数の医療機関による受診を行っている。	家族対応で以前からのかかりつけ医を継続する場合や、職員対応で受診する場合もあるが、協力医の往診も月2回行われている。整形、眼科等への受診も職員付添で行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師はいないが、お客様のいつもと違う様子は主治医に連絡をとり指示をあおいでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お客様が入院した際には安心して治療が受けられるようにソーシャルワーカーとの情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い、ご家族の意向を踏まえ医師と連携を図り対応をしている。	重度化したり入院が続く場合は状態の変化に応じて話し合いの機会を持つようになっているが、現状は医療体制が不十分なこともあり、看取りは行わない意向を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えてマニュアルを整備し周知徹底を図っている。年1回、救急蘇生法の学習会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火訓練・避難訓練を行っている。隣接している施設や地域と一緒に防災訓練を行い地域の方との交流も行っている。	過去の経験から防災意識の高い地域で、町主催の訓練が実施され事業所として参加している。防火訓練では夜間想定、その他では地震や水害想定等法人の協力を得て実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様一人一人のプライバシーを尊重するために居室へ入る時には必ずノックをし声かけを行っている。	個人個人ケアの振り返りとして、接遇評価表を毎月記入し見直すこととしている。できそうではないこともあるため、会議の場で話したり意識確認に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様が思いや希望を言えるように日常生活の中で自己決定が出来るような声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や手作業、行事の参加等ご本人様の意思を尊重し一人一人のペースに合わせて日々の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の洋服選びはご本人の意向で決めている。理髪店を利用したり散髪の出張サービスを利用しその方に合った身だしなみが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や下膳、調理の下ごしらえ等お客様が役割を持ち職員と一緒に出来るようにしている。月1回両ユニット一緒に会食を実施している。	できるだけ地元の食材を使い、出来合いの物は使わず3食ここで作っている。職員が交替で中心になりできる作業は一緒に行いながら、料理の音や臭いを感じられるよう取り組んでいる。時には2ユニット合同の会食会を行い、楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を日々記録に残し肉、魚、野菜がバランス良く食べられるように支援している。朝食はパン、おにぎり、その方に応じて提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持が出来るように毎食後声かけを行いご本人様の出来るところをして頂き又、出来ないところは介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄のパターンを把握し日中は誘導を行いトイレの排泄を促しトイレでの排泄が可能な限り支援している。	立位が困難な場合も2人介助でトイレ誘導したり、排泄パターンに合わせて声がけしたり、個々に合わせて支援している。紙パンツやパットも尿量等に合わせたあて方や種類を検討するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お客様一人一人の状態を把握し生活動作の中で施設内を歩いたり体を動かしている。食事面では食物繊維、ヨーグルト、牛乳の乳製品、水分の提供を行い便秘予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人様への声かけを行い希望を伺いながら入浴の提供をしている。入られたくないお客様には時間を変えたり職員が変わっての声かけを行ったり、日を変えたりしながら支援している。	週に2～3回のペースで入浴できるように毎日午後実施している。重度の場合は2人介助でシャワー浴だったり、汚染が気になる場合は毎日入浴の場合もある。入浴拒否の場合は声がけを工夫して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、自分の部屋で休む事が出来るように声かけを行っている。夜間は部屋の温度調整を行いポータブルトイレに座って頂いたり安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の目的・副作用・用法・用量について職員全員で周知、理解し支援を行っている。又、症状の変化にも気を配り変化があれば主治医へ報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の部屋の掃除や洗濯物たたみ、タオル干し食事作りなど自分の役割を持って過ごして頂いている。地域行事への参加など楽しみが持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添って散歩に出掛けている。企画を立ててのドライブや地域の行事に参加し地域の方との関わりを持っている。	外出行事は年間計画を作成して実施しているが、普段は食材の買い物に職員と一緒に出かけたり、天候の良い日には施設周りを散歩するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身が選んだ物を購入する際は、お金を手渡し支払いを行ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、知り合いに手紙を書かれたり電話連絡が出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お客様一人一人が落ち着かれる場所が持てるように共有空間のテーブルの配置を考えたりフロアの温度調整を行っている。又、季節感を感じられるように季節に応じて展示物を飾っている。	デイルームからも廊下や部屋からも外の景色が見え季節を感じることができる。落ち着いた木目調の建物になっており、壁には花の写真や習字などが飾られくつろげるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お客様一人一人が気のあった方との会話が持てるように席の配置を行ったりソファや居間に座って話しが出来るようにしている。玄関先にベンチを置いて日向ぼっこが出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みの物を部屋に持ち込んで頂き居心地良く過ごして頂けるように部屋の配置を行っている。	使い慣れた物の持ち込みを勧めている。炬燵やテレビ、タンスやイスなど多くの物を持ち込み、家の部屋のようにしている方もある。1人でもできるだけゆっくりくつろげるように職員と一緒に考えるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居間、居室の家具、テーブルの位置を工夫している。お客様が動きやすく安全に過ごせるように空間を設けている。		